

地域密着型サービス事業者 自己評価表

(認知症対応型共同生活介護事業所 ・ 小規模多機能型居宅介護事業所)

事業者名	グループホーム恵の森 I	評価実施年月日	平成20年5月1日
評価実施構成員氏名	管理者:岡本ひとみ 、介護支援専門員:松本 優子 、齊藤 英秋		
記録者氏名	岡本ひとみ	記録年月日	平成20年5月28日

北海道保健福祉部福祉局介護保険課

は外部評価項目

項目		取り組みの事実 (実施している内容 ・ 実施していない内容)	○印 (取組んでい きたい項目)	取り組んでいきたい内容 (既に取り組んでいることも含む)
Ⅰ. 理念に基づく運営				
1. 理念の共有				
1	○地域密着型サービスとしての理念 地域の中でその人らしく暮らしていくことを支えていくサービスとして、事業所独自の理念を作り上げている。	開設時より、基本となる三つの柱を掲げている。会議の場でも、理念に沿った支援がされるよう話し合い、日々の対応について振り返る機会を持っている。		
2	○理念の共有と日々の取り組み 管理者と職員は、理念を共有し、理念の実践に向けて日々取り組んでいる。	ケースカンファレンスや会議の際、理念を念頭に、介護支援の方向性を見誤らないよう、実践に向けて全体で取り組んでいる。		
3	○家族や地域への理念の浸透 事業所は、利用者が地域の中で暮らし続けることを大切にしたい理念を、家族や地域の人々に理解してもらえるよう取り組んでいる。	入居時に家族へ説明し理解を得ている。玄関ホール壁、目のつく所に文書化したものを掲示しているので、地域の方々が来られた際に見ていただけるようにしている。		
2. 地域との支えあい				
4	○隣近所とのつきあい 管理者や職員は、隣近所の人と気軽に声をかけ合ったり、気軽に立ち寄ってもらえるような日常的なつきあいができるように努めている。	挨拶や気軽な声かけを積極的に実施して、近所の方々からも親しみを持っていただけるよう努めている。		
5	○地域とのつきあい 事業所は孤立することなく地域の一員として、自治会、老人会、行事等、地域活動に参加し、地元の人々と交流することに努めている。	町内会、老人会の方々とお付き合いをさせていただいており、また、地域の夏祭りにも参加し、希望のあった利用者也参加し、地域の人々との交流に努めている。		
6	○事業者の力を活かした地域貢献 利用者への支援を基盤に、事業所や職員の状況や力に応じて、地域の高齢者等の暮らしに役立つことがないか話し合い、取り組んでいる。	近隣やご町内の高齢者を家族に持たれる方々からの介護相談等をとおして、対応しております。また、降雪期における近隣の安全確保のため、道路の除雪を出来る限りの距離をもって協力しております。(夏季は、除草や歩道の植栽などの環境整備に尽力。)		

項目	取り組みの事実 (実施している内容 ・ 実施していない内容)	○印 (取組んでい きたい項目)	取り組んでいきたい内容 (既に取り組んでいることも含む)
3. 理念を実践するための制度の理解と活用			
7 ○評価の意義の理解と活用 運営者、管理者、職員は、自己評価及び外部評価を実施する意義を理解し、評価を活かして具体的な改善に取り組んでいる。	外部評価の意義について、会議等を通して職員に説明。自己評価を行う際は、一人一人の意見を元にまとめる。		
8 ○運営推進会議を活かした取り組み 運営推進会議では、利用者やサービスの実際、評価への取り組み状況等について報告や話し合いを行い、そこでの意見をサービス向上に活かしている。	事業所全体のアクティビティに参加していただくことをとおして、雰囲気、利用者の方々の表情を実際に見ていただく機会を設けています。		
9 ○市町村との連携 事業所は、市町村担当者と運営推進会議以外にも行き来する機会を作り、市町村とともにサービスの質の向上に取り組んでいる。	サービス提供していくうえで、不明な点及び問題点が生じた時は、介護保険課及び生活支援課にその都度確認し、サービスの質の向上に取り組んでいる。		
10 ○権利擁護に関する制度の理解と活用 管理者や職員は、地域権利擁護事業や成年後見制度について学ぶ機会を持ち、個々の必要性を関係者と話し合い、必要な人にはそれらを活用できるよう支援している。	研修や資料などで学んでいる。	○	地域権利擁護や成年後見制度について勉強会を開き、制度内容の理解を深めて行きたい。
11 ○虐待の防止の徹底 管理者や職員は、高齢者虐待防止関連法について学ぶ機会を持ち、利用者の自宅や事業所内で虐待が見過ごされることがないように注意を払い、防止に努めている。	身体拘束防止委員会を設置し、月1回のユニット会議で報告し、また、拘束・虐待の言動及び行動については常に注意を怠らず、その防止に努めている。		
4. 理念を実践するための体制			
12 ○契約に関する説明と納得 契約を結んだり解約をする際は、利用者や家族等の不安、疑問点を尋ね、十分な説明を行い理解・納得を図っている。	施設見学時の相談から契約時にいたる間、十分な時間をとって説明、不安や疑問点はその都度確認している。		

項目		取り組みの事実 (実施している内容 ・ 実施していない内容)	○印 (取組んでい きたい項目)	取り組んでいきたい内容 (既に取り組んでいることも含む)
13	○運営に関する利用者意見の反映 利用者が意見、不満、苦情を管理者や職員並びに外部者へ表せる機会を設け、それらを運営に反映させている。	外部、ご家族、利用者の不満、苦情があれば、都度、苦情受付担当者が検討し、解決策を見出すべく体制をしております。		
14	○家族等への報告 事業所での利用者の暮らしぶりや健康状態、金銭管理、職員の異動等について、家族等に定期的及び個々にあわせた報告をしている。	随時、来訪時や電話等で伝えている。3ヶ月に1回のケアプラン原案ご送付時に、近況報告を同封している。		
15	○運営に関する家族等意見の反映 家族等が意見、不満、苦情等を管理者や職員並びに外部者へ表せる機会を設け、それらを運営に反映させている。	ご家族が来訪された際に近況報告をし、改善点、ご意見等がないか、日常のコミュニケーションの中から引き出せるよう取り組んでいる。ご意見等があれば即座に内容を検討し、運営に活かしている。		
16	○運営に関する職員意見の反映 運営者や管理者は、運営に関する職員の意見や提案を聞く機会を設け、反映させている。	運営者、管理者は、日頃からコミュニケーションを大切にし、個別面談、ユニット会議を活用し、意見や提案等、話しやすい雰囲気づくりに努めている。会議等で提案された内容は、すぐ反映させている。		
17	○柔軟な対応に向けた勤務調整 利用者や家族の状況の変化、要望に柔軟な対応ができるよう、必要な時間帯に職員を確保する為の話し合いや勤務の調整に努めている。	個々のご利用者の状態やペースに合わせたケアが柔軟にできるよう、勤務調整に努めている。不都合が生じたら、その都度話し合っている。		
18	○職員の異動等による影響への配慮 運営者は、利用者が馴染みの管理者や職員による支援を受けられるように、異動や離職を必要最小限に抑える努力をし、代わる場合は、利用者へのダメージを防ぐ配慮をしている。	開設から1年程の間、多少の離職者はありませんでしたが、現在は質の向上に対し前向きに取り組む職員で構築され、ご利用者の方々との信頼関係は厚く保たれております。また、過去の離職・異動等においては、馴染みの関係を壊さないように工夫した説明をし、ご利用者の方々にダメージを受けないよう努めました。		

項目		取り組みの事実 (実施している内容 ・ 実施していない内容)	○印 (取組んでい きたい項目)	取組んでいきたい内容 (既に取り組んでいることも含む)
5. 人材の育成と支援				
19	○職員を育てる取り組み 運営者は、管理者や職員を段階に応じて育成するための計画をたて、法人内外の研修を受ける機会の確保や、働きながらトレーニングしていくことを進めている。	社内及び社外の講習・研修を計画・実施し、研修報告をとおして他の職員の知識向上に努める。		
20	○同業者との交流を通じた向上 運営者は、管理者や職員が地域の同業者と交流する機会を持ち、ネットワーク作りや勉強会、相互訪問等の活動を通じて、サービスの質を向上させていく取り組みをしている。	市内のグループホーム職員の方並びに事業者の方々との交流の機会を持ち、情報交換をとおして連携を深めていくよう、努めている。	○	小樽市認知症高齢者グループホーム連絡協議会及び北海道認知症高齢者グループホーム協議会に加盟しています。
21	○職員のストレス軽減に向けた取り組み 運営者は、管理者や職員のストレスを軽減するための工夫や環境づくりに取り組んでいる。	不定期ではあるが、職員懇親会や個人面談などの機会を設け、その工夫に努めている。		
22	○向上心をもって働き続けるための取り組み 運営者は、管理者や職員個々の努力や実績、勤務状況を把握し、各自が向上心をもって働けるように努めている。	研修受講の誘導、資格取得誘導の資格取得奨励金の設定など、労働環境整備を含めてその実施に努めている。		
Ⅱ. 安心と信頼に向けた関係づくりと支援				
1. 相談から利用に至るまでの関係づくりとその対応				
23	○初期に築く本人との信頼関係 相談から利用に至るまでに本人が困っていること、不安なこと、求めていること等を本人自身からよく聴く機会をつくり、受け止める努力をしている。	入所後も、ご本人の思いや不安などの把握に努めるよう、日々の会話や様子から察知し、傾聴し、受け止め、職員全体で支援に当たっている。		
24	○初期に築く家族との信頼関係 相談から利用に至るまでに家族等が困っていること、不安なこと、求めていること等をよく聴く機会をつくり、受け止める努力をしている。	中立の立場、また利用者ご本人の思いも伝えながら、よく話し合うことで信頼関係を築くよう努めている。		

項目		取り組みの事実 (実施している内容 ・ 実施していない内容)	○印 (取組んでい きたい項目)	取組んでいきたい内容 (既に取り組んでいることも含む)
25	○初期対応の見極めと支援 相談を受けたときに、本人と家族が「その時」まず必要としている支援を見極め、他のサービス利用も含めた対応に努めている。	本人と家族のお互いの必要性や要望を傾聴し、対応に努めている。		
26	○馴染みながらのサービス利用 本人が安心し、納得した上でサービスを利用するために、サービスをいきなり開始するのではなく、職員や他の利用者、場の雰囲気徐々に馴染めるよう家族等と相談しながら工夫している。	職員間、ご家族とも相談しながら、ご本人の状態、要望に合わせ、安心して生活ができるよう何度も検討しながら対応している。		
2. 新たな関係づくりとこれまでの関係継続への支援				
27	○本人と共に過ごし支えあう関係 職員は、本人を介護される一方の立場におかず、一緒に過ごしながら喜怒哀楽を共にし、本人から学んだり、支えあう関係を築いている。	当ホームの理念にもあるように、一人一人の個性を大切に、また、その方の尊厳を重んじ、人と人との心が通じ合い、お互い支えあう関係づくりに留意しています。レクレーションなど、それぞれに合わせた活動を一緒に行い、一緒に楽しむことで、常に学び支えあう関係を築いている。		
28	○本人を共に支えあう家族との関係 職員は、家族を支援される一方の立場におかず、喜怒哀楽を共にし、一緒に本人を支えていく関係を築いている。	行事等には参加を呼びかけ、共有した時間を持てるよう努めている。日々の出来事や思いをご家族に報告し、ご本人に何が良いのか等の情報を共有し一緒に考えることで、年月を重ねるにつれ信頼関係が生まれ、強くなり、協働体制が築かれてきている。		
29	○本人と家族のよりよい関係に向けた支援 これまでの本人と家族との関係の理解に努め、よりよい関係が築いていけるように支援している。	普段の生活においては家族関係という意識はお持ちですが、やはりご家族に会いたいという思いを持っておられ、行事の際あるいは外出、外泊をお勧めしたりなど、ご家族とご本人の橋渡しができるよう努めている。ご本人から何らかの相談、訴え等があった時は、家族関係に配慮して、報告、相談し、より良い関係になるよう支援している。		
30	○馴染みの人や場との関係継続の支援 本人がこれまで大切にしてきた馴染みの人や場所との関係が途切れないよう、支援に努めている。	ご利用者個々の意思を尊重し、場合によってはご家族の協力を仰ぐ等、ご本人の気持ちを大切に、実現できるよう支援に努めている。		

項目		取り組みの事実 (実施している内容 ・ 実施していない内容)	○印 (取組んでい きたい項目)	取り組んでいきたい内容 (既に取り組んでいることも含む)
31	○利用者同士の関係の支援 利用者同士の関係を把握し、一人ひとりが孤立せずに利用者同士が関わり合い、支え合えるように努めている。	個々の状態や相性を把握し、食事の席を定期的に変更する等、全員が過ごしやすい生活に配慮している。アクティビティで他の方とコミュニケーションがとれるよう仲立ちし、ご利用者同士が友好的に関われるよう努めている。お互いの居室を訪ね合ったり、対人関係を理解しながら他の方々と関わりが持てるよう、機会をつくり対応している。		
32	○関係を断ち切らない取り組み サービス利用(契約)が終了しても、継続的な関わりを必要とする利用者や家族には、関係を断ち切らないつきあいを大切にしている。	退去された利用者さん宅を訪問し、ご家族と連絡を取り合うなど可能な限りお付き合いは継続している。		
Ⅲ. その人らしい暮らしを続けるためのケアマネジメント				
1. 一人ひとりの把握				
33	○思いや意向の把握 一人ひとりの思いや暮らし方の希望、意向の把握に努めている。困難な場合は、本人本位に検討している。	個々の性格を見極め、その方の意思と尊厳を重んじ、ご本人本位で行っております。日常の関わりの中で、その時々の方が求めている事や喜ぶ事を把握し、意向に沿えるよう努めている。		
34	○これまでの暮らしの把握 一人ひとりの生活歴や馴染みの暮らし方、生活環境、これまでのサービス利用の経過等の把握に努めている。	利用していたサービス提供事業所、病医院、ご本人、ご家族から、できるだけ情報を聞き取りアセスメントを行っている。収集した情報は、全職員が確認している。		
35	○暮らしの現状の把握 一人ひとりの一日の過ごし方、心身状態、有する力等の現状を総合的に把握するように努めている。	記録やケアプランをとおり、個々の方の現状を把握している。一人一人の心身状態や状況を把握し、ご本人のペースを尊重し、支援している。		
2. 本人がより良く暮らし続けるための介護計画の作成と見直し				
36	○チームでつくる利用者本位の介護計画 本人がより良く暮らすための課題とケアのあり方について、介護支援専門員の適切な監理のもとに、本人、家族、必要な関係者と話し合い、それぞれの意見やアイデアを反映した介護計画を作成している。	介護者主体の支援にならないように、ご本人、ご家族の意見や要望を聞き、より良い暮らしを目指した介護計画を作成している。		

項目		取り組みの事実 (実施している内容 ・ 実施していない内容)	○印 (取組んでい きたい項目)	取組んでいきたい内容 (既に取り組んでいることも含む)
37	○現状に即した介護計画の見直し 介護計画の期間に応じて見直しを行うとともに、見直し以前に対応できない変化が生じた場合は、介護支援専門員の適切な監理のもとに、本人、家族、必要な関係者と話し合い、現状に即した新たな計画を作成している。	3ヵ月毎の見直し、状況の変化に合わせて話し合いを行い、作成している。		
38	○個別の記録と実践への反映 日々の様子やケアの実践・結果、気づきや工夫を個別記録に記入し、情報を共有しながら実践や介護計画の見直しに活かしている。	日々の経過を個別に記録し、常に情報の把握に努め、ケアの実践や介護計画に反映させている。		
3. 多機能性を活かした柔軟な支援				
39	○事業所の多機能性を活かした支援 本人や家族の状況、その時々々の要望に応じて、事業所の多機能性を活かした柔軟な支援をしている。	ご家族同行の通院介助など、柔軟に対応している。		
4. 本人がより良く暮らし続けるための地域資源との協働				
40	○ 地域資源との協働 本人の意向や必要性に応じて、民生委員やボランティア、警察、消防、文化・教育機関等と協力しながら支援している。	必要に応じて、対応している。		
41	○他のサービスの活用支援 本人の意向や必要性に応じて、地域の他のケアマネジャーやサービス事業者と話し合い、他のサービスを利用する為の支援をしている。	該当者なし。		
42	○地域包括支援センターとの協働 本人の意向や必要性に応じて、権利擁護や総合的かつ長期的なケアマネジメント等について、地域包括支援センターと協働している。	該当者なし。	○	必要があれば、対応していきたい。

項目		取り組みの事実 (実施している内容 ・ 実施していない内容)	○印 (取組んでい きたい項目)	取組んでいきたい内容 (既に取り組んでいることも含む)
43	○かかりつけ医の受診支援 利用者をよく知る看護職員あるいは地域の看護職と気軽に相談しながら、日常の健康管理や医療活用の支援をしている。	月2回の訪問診療を受け、事前に健康状態を記録して医師に相談している。利用者が慣れ親しんだかかりつけ病院への定期受診時に、職員が同行し、健康管理に努めている。		
44	○認知症の専門医等の受診支援 専門医等認知症に詳しい医師と関係を築きながら、職員が相談したり、利用者が認知症に関する診断や治療を受けられるよう支援している。	主治医と相談し、必要時、専門医受診としている。		
45	○看護職との協働 事業所として看護職員を確保している又は、利用者をよく知る看護職あるいは地域の看護職と気軽に相談しながら、日常の健康管理や医療活用の支援をしている。	看護職員の確保はされていないが、日常の健康状態は主治医に報告し、指示、助言をいただいている。		
46	○早期退院に向けた医療機関との協働 利用者が入院した時に安心して過ごせるよう、また、できるだけ早期に退院できるように、病院関係者との情報交換や相談に努めている。あるいは、そうした場合に備えて連携している。	病院関係者やご家族との情報交換を密にし、退院に向け、ホームでの対応についても相談し、ご本人にとって最良の状態で生活が再開できるよう、早期退院に努めている。		
47	○重度化や終末期に向けた方針の共有 重度化した場合や終末期のあり方について、できるだけ早い段階から本人や家族等ならびにかかりつけ医等と繰り返し話し合い、全員で方針を共有している。	該当者なし。		
48	○重度化や終末期に向けたチームでの支援 重度や終末期の利用者が日々をより良く暮らせるために、事業所の「できること・できないこと」を見極め、かかりつけ医とともにチームとしての支援に取り組んでいる。あるいは、今後の変化に備えて検討や準備を行っている。	該当者なし。		

項目		取り組みの事実 (実施している内容 ・ 実施していない内容)	○印 (取組んでい きたい項目)	取組んでいきたい内容 (既に取り組んでいることも含む)
49	○住替え時の協働によるダメージの防止 本人が自宅やグループホームから別の居宅へ移り住む際、家族及び本人に関わるケア関係者間で十分な話し合いや情報交換を行い、住替えによるダメージを防ぐことに努めている。	まだ、該当者なし。		
IV. その人らしい暮らしを続けるための日々の支援				
1. その人らしい暮らしの支援				
(1)一人ひとりの尊重				
50	○プライバシーの確保の徹底 一人ひとりの誇りやプライバシーを損ねるような言葉かけや対応、記録等の個人情報の取扱いをしていない。	常にご利用者本位の目線に立ち、自分がそのような立場になったらどのように対応してほしいかを念頭に置き、日々対応している。人としての誇りやプライバシーを損ねるような発言には十分配慮している。必要意外の個人情報の取得は行っていない。		
51	○利用者の希望の表出や自己決定の支援 本人が思いや記号を表せるように働きかけたり、わかる力に合わせた説明を行い、自分で決めたり納得しながら暮らせるように支援をしている。	本人の思いを大切にし、寄り添う支援を行っている。自己決定や意思を伝えられるような場面づくり、また、萎縮する事がないよう、表情を見ながら対応している。		
52	○日々のその人らしい暮らし 職員側の決まりや都合を優先するのではなく、一人ひとりのペースを大切にし、その日をどのように過ごしたいか、希望にそって支援している。	ご利用者第一、業務二の次、と考え、焦らず、ゆっくりと対応し、会話の中から希望があった場合は、それぞれに合わせた支援ができるよう、努めている。		
(2)その人らしい暮らしを続けるための基本的な生活の支援				
53	○身だしなみやおしゃれの支援 その人らしい身だしなみやおしゃれができるように支援し、理容・美容は本人の望む店に行けるように努めている。	①ご家族と同行される方②職員と同行される方③ホームで馴染みの訪問理美容を利用される方、希望に沿って対応している。自らお化粧やおしゃれをしておられる際は見逃さず声をかけ、身だしなみに対する意識を失わないよう支援している。		
54	○食事を楽しむことのできる支援 食事が楽しみなものになるよう、一人ひとりの好みや力を活かしながら、利用者と職員がその人に合わせて、一緒に準備や食事、片付けをしている。	調理下準備、盛り付け、配膳、下膳、米とぎ等、一緒に行えるよう支援している。料理クラブをつくり、毎週水曜日、全員参加でご本人の能力、意思に合わせながら、一緒に準備や食事、片付けを行っている。毎回大好評で、楽しみにされている。		

項目		取り組みの事実 (実施している内容 ・ 実施していない内容)	○印 (取組んでい きたい項目)	取り組んでいきたい内容 (既に取り組んでいることも含む)
55	○本人の嗜好の支援 本人が望むお酒、飲み物、おやつ、タバコ等、好みのものを一人ひとりの状況に合わせて日常的に楽しめるよう支援している。	好みに合わせ対応できるようにしている。お酒は、現在希望される方はいない。食べたいもの、飲みたいものがあったら一緒に買い物に行くなど、希望にあわせて対応している。		
56	○気持ちよい排泄の支援 排泄の失敗やおむつの使用を減らし、一人ひとりの力や排泄のパターン、習慣を活かして気持ちよく排泄できるよう支援している。	飲水・排泄チェック表により把握し、自立、声がけ、見守り介助し、自立支援のうえで汚染軽減するよう対応している。それぞれの身体状況の変化に合わせ、トイレでの排泄を基本に、支援している。失禁のある方は、羞恥心や自尊心を傷つけないよう、さりげなく介入している。		
57	○入浴を楽しむことができる支援 曜日や時間帯を職員の都合で決めてしまわずに、一人ひとりの希望やタイミングに合わせて、入浴を楽しめるように支援している。	一人一人の体調を確認したうえで、できる限り希望に合わせて対応している。拒否がある場合は、日を置く場合もあるが、声がけに工夫を凝らす努力を行っている。		
58	○安眠や休息の支援 一人ひとりの生活習慣やその時々状況に応じて、安心して気持ちよく休息したり眠れるよう支援している。	その時々状況を見て、休めるよう対応している。		
(3)その人らしい暮らしを続けるための社会的な生活の支援				
59	○役割、楽しみごと、気晴らしの支援 張り合いや喜びのある日々を過ごせるように、一人ひとりの生活歴や力を活かした役割、楽しみごと、気晴らしの支援をしている。	いろいろなアクティビティを提供し、外出の機会も多くつくり、気分転換を図れるよう支援している、		
60	○お金の所持や使うことの支援 職員は、本人がお金を持つことの大切さを理解しており、一人ひとりの希望や力に応じて、お金を所持したり使えるように支援している。	個々能力に応じ、買い物支援や自己管理への支援を行っている。		

項目		取り組みの事実 (実施している内容 ・ 実施していない内容)	○印 (取組んでい きたい項目)	取り組んでいきたい内容 (既に取り組んでいることも含む)
61	○日常的な外出支援 事業所の中だけで過ごさずに、一人ひとりのその日の希望にそって、戸外に出かけられるよう支援している。	気候の良い日は、出来るだけ散歩やドライブ等、外出支援している。ご本人からの訴えが無くても、散歩や買い物に出かけるよう促し、支援している。		
62	○普段行けない場所への外出支援 一人ひとりが行ってみたい普段は行けないところに、個別あるいは他の利用者や家族とともに出かけられる機会をつくり、支援している。	外出行事を計画し、季節ごとに支援している。また、個々の能力に応じて対応している。		
63	○電話や手紙の支援 家族や大切な人に本人自らが電話をしたり、手紙のやり取りができるように支援をしている。	希望時には、いつでも電話ができるよう伝え、支援している。ご本人からご家族等に手紙を出したり、返事をかくなど、やり取りの支援に努めている。		
64	○家族や馴染みの人の訪問支援 家族、知人、友人等、本人の馴染みの人たちが、いつでも気軽に訪問でき、居心地よく過ごせるよう工夫している。	いつでも訪問していただけるような環境づくりに努め、ご本人との時間を大切に、居心地よく過ごしていただけるよう、心がけている。		
(4) 安心と安全を支える支援				
65	○身体拘束をしないケアの実践 運営者及び全ての職員が「介護保険法指定基準における禁止の対象となる具体的な行為」を正しく理解しており、身体拘束をしないケアに取り組んでいる。	身体拘束をしないケアを基本に、歩行不安定な場合など、常に職員が見守り、歩行介助などをおして、事故にならないよう努めている。		
66	○鍵をかけないケアの実践 運営者及び全ての職員が、居室や日中玄関に鍵をかけることの弊害を理解しており、鍵をかけないケアに取り組んでいる。	日中、玄関ドアの施錠は行っておりません。自由に出入りできる環境を確保しておりますが、外出される時は職員が付き添い、安全確保に努めています。		

項目		取り組みの事実 (実施している内容 ・ 実施していない内容)	○印 (取組んでい きたい項目)	取り組んでいきたい内容 (既に取り組んでいることも含む)
67	○利用者の安全確認 職員は、プライバシーに配慮しながら、昼 夜通して利用者の所在や様子を把握し、安 全に配慮している。	職員各自は、ご利用者の所在を常に把握し、安全確保に努めている。		
68	○注意の必要な物品の保管・管理 注意の必要な物品を一律になくすのでは なく、一人ひとりの状態に応じて、危険を防 ぐ取り組みをしている。	注意を要する物などについては、ご本人、ご家族の了解を得て事務所で保管し、その 他施設で有する物については、手の届かない所で保管している。		
69	○事故防止のための取り組み 転倒、窒息、誤薬、行方不明、火災等を防 ぐ為の知識を学び、一人ひとりの状態に応 じた事故防止に取り組んでいる。	職員全員が普通救命講習を受けており、知識は習得している。事故防止のため、常 にご利用者を見守りできるよう、職員間で声がけを行う。		
70	○急変や事故発生時の備え 利用者の急変や事故発生時に備え、全て の職員が応急手当や初期対応の訓練を定 期的に行っている。	緊急用基本情報を作成し、訓練に関しては、普通救命講習で習得したことを、都度確 認し周知している。		
71	○災害対策 火災や地震、水害等の災害時に、昼夜を 問わず利用者が避難できる方法を身につ け、日ごろより地域の人々の協力を得られ よう働きかけている。	職員、ご利用者と共に、避難訓練を含む自衛消防訓練を行っている。		
72	○リスク対応に関する家族との話し合い 一人ひとりに起こり得るリスクについて家 族等に説明し、抑圧感のない暮らしを大切 にした対応策を話し合っている。	ケアプラン作成し、受診結果をご家族に伝え、ご本人にどのように生活をおくっても らうか、話し合いをしている。		
(5)その人らしい暮らしを続けるための健康面の支援				

項目		取り組みの事実 (実施している内容 ・ 実施していない内容)	○印 (取組んでい きたい項目)	取り組んでいきたい内容 (既に取り組んでいることも含む)
73	○体調変化の早期発見と対応 一人ひとりの体調の変化や異変の発見に努め、気づいた際には速やかに情報を共有し、対応に結び付けている。	日々の状態を把握し、体調変化を見逃さないよう努めている。毎日バイタルチェックを行い、引継ぎにおいて必ず情報を伝達し、早期対応に心がけている。緊急時は、主治医に連絡する。		
74	○服薬支援 職員は、一人ひとりが使用している薬の目的や副作用、用法や用量について理解しており、服薬の支援と症状の変化の確認に努めている。	服薬情報をファイルし、職員で情報を共有している。薬は朝・昼・夕・就寝薬に日付・名前を記入し、一人一人決まった場所で保管している。服薬時は、複数の職員で目視と名前・日付を声にて確認したうえで服薬していただく。		
75	○便秘の予防と対応 職員は、便秘の原因や及ぼす影響を理解し、予防と対応のための飲食物の工夫や身体を動かす働きかけに取り組んでいる。	乳製品、野菜、水分の摂取に心がけ、メニューの内容、水分量を確認し、適度な運動を取り入れている。	○	その方に応じ、腹部マッサージを行っている。
76	○口腔内の清潔保持 口の中の汚れやにおいが生じないように、毎食後、一人ひとりの口腔状態や力に応じた支援をしている。	毎食前の手洗い、毎食後の歯磨き、うがい、義歯洗浄は声がけ、促し、介助して清潔を保つよう、支援している。		
77	○栄養摂取や水分確保の支援 食べる量や栄養バランス、水分量が一日を通じて確保できるよう、一人ひとりの状態や力、習慣に応じた支援をしている。	職員間で相談し、バランスの取れたメニュー作りを行っている。全員の食事、水分の摂取量を把握し、記録している。	○	その方の状態に応じた、食事の形態を工夫している。(魚のほぐし等)
78	○感染症予防 感染症に対する予防や対応の取り決めがあり、実行している(インフルエンザ、疥癬、肝炎、MRSA、ノロウイルス等)	ホール等にポスター掲示し、手洗い、うがい、徹底し、面会・来客される全ての方にも声がけを行い、実行している。マニュアルを作成し、随時対応している。	○	職員についても、出勤時・外出からの帰館時は手洗いを励行し、ご利用者の方々も同様に行っていただいている。

項目		取り組みの事実 (実施している内容 ・ 実施していない内容)	○印 (取組んでい きたい項目)	取組んでいきたい内容 (既に取り組んでいることも含む)
79	○食材の管理 食中毒の予防のために、生活の場としての台所、調理用具等の衛生管理を行い、新鮮で安全な食材の使用と管理に努めている。	週1回、冷蔵庫内の清掃及び食材のチェックを行っている。台所、調理用具等の衛生管理を行い、新鮮で安全な食材の使用と管理に努めている。		
2. その人らしい暮らしを支える生活環境づくり				
(1)居心地のよい環境づくり				
80	○安心して出入りできる玄関まわりの工夫 利用者や家族、近隣の人等にとって親しみやすく、安心して出入りができるように、玄関や建物周囲の工夫をしている。	玄関ホール等に手芸品等を飾り、明るい雰囲気づくりに気配りをし、また、玄関前の前庭にはベンチ、テーブル、花壇も設置し、どなたでも気軽に寄っていただける工夫を行っている。		
81	○居心地のよい共用空間づくり 共用の空間(玄関、廊下、居間、台所、食堂、浴室、トイレ等)は、利用者にとって不快な音や光がないように配慮し、生活感や季節感を採り入れて、居心地よく過ごせるような工夫をしている。	季節に合わせた飾り付けを行い、四季を感じていただいている。		
82	○共用空間における一人ひとりの居場所づくり 共用空間の中には、一人になれたり、気の合った利用者同士で思い思いに過ごせるような居場所の工夫をしている。	LDKには、ダイニングテーブル以外にソファセットも配置し、また、廊下にもテーブルセットを配置し、気分に合わせて過ごしていただける空間づくりに努めている。		
83	○居心地よく過ごせる居室の配慮 居室あるいは泊まりの部屋は、本人や家族と相談しながら、使いなれたものや好みのものを活かして、本人が居心地よく過ごせるような工夫をしている。	ご本人が使い慣れた物や好みの物、思い出の物などを持ってきてもらい、穏やかに、また居心地良く過ごされる居室にさせていただいてる。		
84	○換気・空調の配慮 気になるにおいや空気のよどみがないよう換気に努め、温度調節は、外気温と大きな差がないように配慮し、利用者の状況に応じてこまめに行っている。	強制給排気設備を設置しており、適切に換気を行い、また、温度・湿度にも適切な配慮を行っている。		
(2)本人の力の発揮と安全を支える環境づくり				

項目		取り組みの事実 (実施している内容 ・ 実施していない内容)	○印 (取組んでい きたい項目)	取り組んでいきたい内容 (既に取り組んでいることも含む)
85	○身体機能を活かした安全な環境づくり 建物内部は一人ひとりの身体機能を活かして、安全かつできるだけ自立した生活が送れるように工夫している。	玄関、廊下、トイレ、浴室、階段、EV、LDK等、必要と思われる箇所全てに手摺を設置し、また、廊下に障害物となるような物は置かず、安全な環境づくりに努めている。キッチンには、IHヒーターを設置している。		
86	○わかる力を活かした環境づくり 一人ひとりのわかる力を活かして、混乱や失敗を防ぎ、自立して暮らせるように工夫している。	出来ないことよりも、出来ることに目をむけ、その方に合わせた作業やレクレーション、食事づくりなどへの参加を促している。居室には表札を掲げ、トイレにも表示を行っている。		
87	○建物の外回りや空間の活用 建物の外回りやベランダを利用者が楽しんだり、活動できるように活かしている。	ご利用者の方々と施設の周りを散歩したり、畑を作って野菜を育てている。前庭にベンチを設置し、花を植えたり、お茶を飲んだり、和気あいあいに談笑したり、ゆったりとした時を過ごす場として活用してます。		

Ⅴ. サービスの成果に関する項目		
項目		取り組みの成果
88	職員は、利用者の思いや願い、暮らし方の意向を掴んでいる	☒ ① ほぼ全ての利用者 ☐ ② 利用者の2／3くらい ☐ ③ 利用者の1／3くらい ☐ ④ ほとんど掴んでいない
89	利用者と職員が、一緒にゆったりと過ごす場面がある	☒ ① 毎日ある ☐ ② 数日に1回程度ある ☐ ③ たまにある ☐ ④ ほとんどない
90	利用者は、一人ひとりのペースで暮らしている	☒ ① ほぼ全ての利用者 ☐ ② 利用者の2／3くらい ☐ ③ 利用者の1／3くらい ☐ ④ ほとんどいない
91	利用者は、職員が支援することで生き生きした表情や姿が見られている	☒ ① ほぼ全ての利用者 ☐ ② 利用者の2／3くらい ☐ ③ 利用者の1／3くらい ☐ ④ ほとんどいない
92	利用者は、戸外の行きたいところへ出かけている	☒ ① ほぼ全ての利用者 ☐ ② 利用者の2／3くらい ☐ ③ 利用者の1／3くらい ☐ ④ ほとんどいない
93	利用者は、健康管理や医療面、安全面で不安なく過ごせている	☒ ① ほぼ全ての利用者 ☐ ② 利用者の2／3くらい ☐ ③ 利用者の1／3くらい ☐ ④ ほとんどいない
94	利用者は、その時々状況や要望に応じた柔軟な支援により、安心して暮らせている	☒ ① ほぼ全ての利用者 ☐ ② 利用者の2／3くらい ☐ ③ 利用者の1／3くらい ☐ ④ ほとんどいない
95	職員は、家族が困っていること、不安なこと、求めていることをよく聴いており、信頼関係ができています	☒ ① ほぼ全ての家族 ☐ ② 家族の2／3くらい ☐ ③ 家族の1／3くらい ☐ ④ ほとんどできていない
96	通いの場やグループホームに馴染みの人や地域の人々が訪ねて来ている	☐ ① ほぼ毎日のように ☒ ② 数日に1回程度 ☐ ③ たまに ☐ ④ ほとんどない

Ⅴ. サービスの成果に関する項目		
項目		取り組みの成果
97	運営推進会議を通して、地域住民や地元の関係者とのつながりが広がったり深まり、事業所の理解者や応援者が増えている。	☐ ①大いに増えている ☒ ②少しずつ増えている ☐ ③あまり増えていない ☐ ④全くいない
98	職員は、生き生きと働いている	☒ ①ほぼ全ての職員が ☐ ②職員の2／3くらいが ☐ ③職員の1／3くらいが ☐ ④ほとんどいない
99	職員から見て、利用者はサービスにおおむね満足していると思う	☒ ①ほぼ全ての利用者が ☐ ②利用者の2／3くらいが ☐ ③利用者の1／3くらいが ☐ ④ほとんどいない
100	職員から見て、利用者の家族等はサービスにおおむね満足していると思う	☒ ①ほぼ全ての家族等が ☐ ②家族等の2／3くらいが ☐ ③家族等の1／3くらいが ☐ ④ほとんどいない

【特に力を入れている点・アピールしたい点】

（日々の実践の中で事業所として力を入れて取り組んでいる点・アピールしたい点等を自由記載）

○会話力に少々劣る点はありませんが、優しさと思いやりに溢れた職員で満たされています。判断の基軸は「自分の親なら」どう対応し、同時にそれが自立支援であるか、という視点を常に持ち行動することを、職員全員理解し実践しております。